日本産業衛生学会
関東地方会ニュース

（題字　高田 勗　筆）

発行所／日本産業衛生学会関東地方会事務局・〒105-8461　東京都港区西新橋 3-25-8　(http://jsohkant.umin.jp/)
東京慈恵会医科大学医学部環境保健医学講座・TEL(03)3433-1111 内 2266・FAX(03)5472-7526・発行責任者／柳澤裕之

復旧工事中の
熊本城戌亥櫓周辺
の作業の様子
(2018.5.17)

写真提供:
原　美佳子(敬称略)

左奥に見える工事
中の建物が天守閣

Society5.0 時代の人材育成と産業衛生学会

武林　亨　（日本産業衛生学会理事・慶應義塾大学教授）

「人と科学技術の連鎖」とのテーマが掲げられた熊本での学会の会場で感じたことの一つに、会員による発表演題のみならず、企業展示やランチョンでも、データ、センシング、モバイルヘルスといった新しい切り口が多かったことがある。少し前に、オックスフォード大学の研究者らによる“THE FUTURE OF EMPLOYMENT”が、「10年後に無くなる職業」としてセンセーショナルに取り上げられたのと同じ文脈にある。国もまた、これから迎える社会を「IoT、ロボット、人工知能、ビッグデータ等の新たな技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し、一人一人のニーズに合わせる形で社会的課題を解決する新たな社会」(Soceity5.0)と描いている。現実社会がこれほどの勢いで変化を遂げつつある今、働く人々を支える本学会は、それを先取りしながら進んでいかなくてはならない。何より、digital nativeの先陣たちがまもなく40歳となり、英語4技能試験にプログラミングと大学入試も変わっていくということは、働く人々のもつ資質や能力そのものが大きく変わるということになるのだ。学会が時代を先導する活力を常に持ち続けるためには、こうした変化を肌で知る若い人材を惹きつけ、先達たちによって蓄積されてきた知見、知恵、経験を伝えた上で、彼らが働き手の中心となる新しい時代の産業衛生のあり方を具体化していかなくてはならない。幸い「10年後に無くなる職業」では、産業保健職はいずれも消えてなくなる確率は比較的低いと位置づけられている。産業保健専門職の資格制度が整備されつつある現在、むしろそこに至るまでの道筋を明示し、支援して欲しいとの声をよく耳にするようになった。本学会がその中心をなし、とりわけ地方会が、人が集い、人が育つ最前線としてその魅力を一層磨き続けることが期待されている。

特集記事　International Congress on Occupational Health (ICOH)のすすめ

北里大学医学部
公衆衛生学単位
堤　明純

ICOHへの参加の意義とICOHの楽しみ方というテーマをいただいた。ICOHに参加する意義は、各人求めようとするものによって多様と思われる。いくつかの視点で、筆者が感じるICOHを素描したい。

World congress!

International Commission on Occupational Health（国際産業保健学会）は、労働現場の安全、健康、ウェルビーイングのより高い水準を目指して設立され、100年以上の歴史を有し、2018年現在、93カ国の1800名を超える専門家で構成される世界有数の国際科学団体である。国際産業保健学会が3年毎に開催しているInternational Congress on Occupational Health（以下、ICOH）は、文字通り、われわれ産業保健職の学術総会の総本山といってよい。

Scientific committee!

国際産業保健学会には、37の科学委員会が活発に活動しており(http://www.icohweb.org/site/scientific-committees.asp)、会員間の定期的な交流と、それぞれの領域における国際会議を、ICOHが開催される合間の年に行っている。ICOHにおいても、各々の委員会が複数のセッションを企画して、専門的な議論がなされる。会員は3つの科学委員会に所属することができる。興味のある課題を極めることは、産業保健活動の幅を広げることにも通じる。

Inspiration!

その時々のトピックや学会のテーマに沿って企画される基調講演（Plenary Session）と準基調講演（Semi-plenary Session）は、大学会にふさわしく、複数の視点で企画されており、刺激的である。産業保健を学び続けることができる喜びと、自身が関わっているこの仕事の重要性を再認識できると思うし、国際的に活躍する仲間をみると、さらに研鑽を積もうというモチベーションを掻き立てられる。

Eye opener!

グローバル・ポリシーに力点の置かれた今年の学会のスコープは広範であった。常に新しいテーマや重要であるにもかかわらず手が付けられていない課題に焦点があてられ、参加者がこれまで気が付かなかった問題点の発見、国際的な課題のとらえ方など、実務、研究に関わらず、目を開かせ、視野を広げてくれる。

Opportunity!

駆け出し以前のことになるが、大学に所属していなかった筆者は、国際学会で留学先を探した。経験も知己も少なかった筆者は、いろいろな人にお世話になった。さらには、最初の職場も、留学先の国際学会での偶然の出会いが縁になった。国内でもそうあるべきだと思うけれども、同業だけではなく、職種をまたいでフラットな交流ができることは、国際学会のよいところだと思う。

Network building!

国際連携強化をミッションとして挙げている川上憲人日本産業衛生学会理事長が自ら呼びかけ、今回のICOHに参加した、アジア8か国の産業保健学会の理事長らとの会合が実現した。日本産業衛生学会が、これらの学会からの若手研究者や専門職を総

会期中に実現したアジア8か国の産業保健学会の理事長・代表者らの会合における記念写真。今後の国際協力が期待される。

会に招待するという企画に対する協力がとりつけられた(写真)。

Friendship!

筆者は、2つの科学委員会に関わっている。振り返ると、自分のキャリアを形成してきた委員会である。同じ領域の研究を志向し、お互いのフィールドでエビデンスを出し合っている。3年に一度のICOHと、それぞれの委員会が開催する国際会議で顔を合わせる仲間は、お互いがリスペクトしあう友となり、仲間が開催する学会は無理をしてでも(楽しみで)参加して応援したくなる。

Social program!

開催都市および近郊の歴史的建造物や史跡、景勝地等を巡るツアーやアトラクションが用意されている。今回、地元の代表的な事業場を訪れる職場巡視ツアーも正規プログラムの一環として企画されていた。見聞を広めて、人間力を培おう。地元の食文化?—Yes, you can enjoy it, too!

Participate and contribute!

ICOHに限らず、目標をもって参加することで、得られるものは大きい。とくに産業保健を志向する者にとって、ICOHは、リッチな果実を得ることが可能な“The congress”である。

ICOH 初参加記

東京大学環境安全本部
黒田玲子

産業医として活動を始めて11年目になりますが、これまでICOHに参加する機会をうまく捉えられず、今回が初めての参加となりました。開催地アイルランドへの訪問も初めてで、「ギネスビール…ジャガイモ…シャムロック(アイルランド国花)…」という乏しいイメージの下、ダブリンに降り立ちました。4月末のアイルランドはサマータイムということもあり既に日が長く、21時近くなっても空は高く青く、高揚感に包まれました。

2部構成のPoster sessionのうち、私は前半(4/29-5/1)で発表の機会をいただきました。“Association between Social jetlag among male factory workers in Japan”という題で、男性工場労働者において、平日と休日の睡眠時間帯の差「社会的時差ボケ」が大きいほど肥満となるリスクが大きく、サーカディアンリズムの乱れが影響していると思われる、という結果を報告しました。夜勤等のサーカディアンリズムの乱れが、乳癌や前立腺癌に影響していることは広く認知されつつありますが、肥満やメタボリックシンドロームとの関連の可能性については現在研究が進みつつあるTopicであり、熱心に質問していただきました。

ほかに、「女性の労働と健康」や「医療従事者の産業保健」などの興味深いSessionに参加したり、Worksite visitにて、IAA(アイルランド航空公社)見学会に参加したりして、学会を満喫することができました。前者では、Unpaid work(いわゆる家事労働・地域奉仕)が職業としてとりあげられていたり、医療従事者のWellbeingが焦点になっていたりして、日本との差異を感じました。後者では、アイルランドが地の利を生かして、ヨーロッパ、特に大西洋の航空安全やコントロールに大きな貢献をしていること、パイロットの就業制限要件について最近緩和傾向にあること、などを興味深くうかがいました。

途中帰国してしまい、日本人研究者の集い@ICOHに参加できなかったことだけが心残りです。次回のICOH2021@Melboruneでは是非参加させていただきたいと今から考えています。

※国際産業保健学会にご興味のある方は、以下の URL にアクセスして下さい。
http://www.icohweb.org/site/homepage.asp
ご不明な点はnational secretaryの吉川 徹先生までご連絡下さい。
email: yoshikawat@jnioshwork.com
(コピー&ペーストする場合は@を半角にして下さい)

特集記事　第 28 回日本産業衛生学会全国協議会開催について

(株)日立製作所
京浜地区産業医療統括センタ
中野愛子

今日の労働環境のグローバル化、事業のスピードアップ、イノベーションなどが求められている状況において、厚生労働省の労働者健康調査では、働く人の約6割が強いストレスを感じながら仕事をしていると答えている。加えて、労働者は高齢化し、ダイバーシティ化も進んでいる。そのような中、政府からは「働き方改革」が示されており、これから多様な働き方が検討されると考えられる。今回の全国協議会のテーマ設定の背景には、働き方の変革期を迎えるこの時期に、新たな個人への健康支援に加え、経営層を巻き込み労働の在り方にも関与していく戦略的な健康支援についての好事例集約と議論を通じて、社会にも提言できる機会にしたいという思いがある。

第28回日本産業衛生学会全国協議会開催の準備は大詰めを迎えているが、関東地方会の4部会の先生方の多大なご協力を賜りながら進めている。とくに実地研修については、東日本旅客鉄道株式会社の笠原先生のご尽力により、東海旅客鉄道株式会社の新幹線大井基地を研修場所としていただけた。また会場の東京工科大学が立地する大田区には、約3,500の中小の工場があり、「ものづくりのまち」として知られている。デジタルカメラやゲーム機などの最終製品を造る工場ばかりではなく、素材を「削る」「磨く」「形成する」「メッキする」といった、ひとつの加工を専門に請け負っている工場が多い。このような工場にもご協力いただき、市民公開講座や特別講演の演者としてご登壇いただくこととした。

世界に誇る技術を持つ町工場の経営者の方々から、技術を守ることと従業員の健康を守ることのバランスをどのように取りながら事業運営をしているかなど、生の声を聴く機会は貴重である。このような中小企業にこそ産業保健の支援が必要であり、サブテーマにもあるようにすべての働く人々の健康のために学会として何ができるかをご参加の皆さんと一緒に考えていきたい。

多数のご参加をお待ちしています。

テーマ：働き方の変革期における戦略的産業保健～すべての働く人々の健康のために～

【会期】2018年9月14日（金）　15日（土）　16日（日）

【会場】東京工科大学蒲田キャンパス　3号館・12号館・片柳アリーナ

【役員】

企画運営委員長　五十嵐千代（産業看護部会部会長　東京工科大学医療保健学部看護学科教授・産業保健実践研究センター長）

実行委員長　中野愛子（関東産業看護部会長（株）日立製作所）

プログラム委員長　掛本知里（産業看護部会副部会長　東京有明医療大学　看護学部教授）

【日程概要】

9月14日（金）

実地研修　14:00～16:00

(株)朝日プリンテック　築地工場
全日本空輸(株)
(株)宮地鉄工所
旭硝子(株)　京浜工場
東海旅客鉄道(株)　新幹線大井基地

産業看護部会研修　10:30～16:00

「看護職のための有害物質管理入門」

9月15日（土）

基調講演1　10:00～11:00

「働き方の変革期における戦略的産業保健とは」
五十嵐千代(東京工科大学医療保健学部看護学科教授)

基調講演2　11:05～11:50

「働き方改革の行方」
厚生労働省

メインシンポジウム　13:20～15:30

「働き方の変革期における戦略的産業保健
～すべての働く人々の健康のために～」
樋口美雄(慶應義塾大学商学部教授、政府働き方改革実現会議委員)
北沢利文(東京海上日動火災保険(株) 代表取締役社長)
土肥誠太郎(三井化学(株) 統括産業医)
住徳松子(アサヒビール(株) 産業保健師)

市民公開講座　16:30～17:30

「中小企業の経営改革と人材確保・育成・健康」
諏訪貴子(ダイヤ精機(株) 代表取締役社長)
＜プロフィール＞
「町工場の娘」の著者(NHKドラマ化)。東京都生まれ。32歳で父の逝去に伴いダイヤ精機社長に就任。新しい社風を構築し、育児と経営を両立させる若手女性経営者として活躍中。
日経BP社Woman of year 2013 大賞(リーダー部門)を受賞。

教育講演、公募企画　13:00～18:30

懇親会　18:30～21:00

大学12階ラウンジにて夜景を見ながら、ケツメイシのプロデューサーによるBGM、日本を代表する三味線奏者によるパフォーマンス、横浜ベイスターズ御用達店からのデリバリーなど。

9月16日(日)

四部会合同企画シンポジウム　9:00～11:00

「厚生労働省報告書 「働き方の未来2035」から考える産業保健 ～5つの未来事例からのヒント～」
宮本俊明(新日鐵住金(株)君津製鐵所)
加藤 元(日本アイ・ビー・エム健康保険組合)
中野愛子((株)日立製作所)
對木博一(合同会社アール)

特別講演1　14:00～15:30

「コミュニティ・デザイン」
山崎 亮(studio-L代表、東北芸術工科大学教授)
“情熱大陸”など多くのマスメディアにご出演

特別講演2　15:40～16:40

「下町ボブスレーにかける町工場の情熱」
細貝淳一((株)マテリアル代表取締役・下町ボブスレープロジェクト推進委員会GM)
(株)マテリアルは大田区の優工場にも認定され、社員の人々が活き活きと働いている小規模企業。
働きやすい職場をどう作ってきたのか、加えてオリンピック出場への夢を語る。

公募企画　9:30～16:00

【学会運営事務局】
〒107-0052　東京都港区赤坂2-18-14 4F
TEL:03-3230-0787
Email:jimukyoku@sanei2018.jp
URL: http://www.sanei2018.jp

地方会ニュースでは、関東地方会員による学会関連の活動の案内などの情報提供に努めております。本ニュースへの開催案内や告知等の掲載のご希望がある場合は、事務局までご一報ください。

おめでとうございます

第91回日本産業衛生学会
奨励賞
吉川　徹先生
（労働安全衛生総合研究所）

編集委員会　優秀論文賞
松尾知明先生
（労働安全衛生総合研究所）

生涯教育委員会　第2回若手論文賞
遠藤源樹先生
（東京女子医科大学衛生学公衆衛生学第二講座）

今村幸太郎先生
（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野）

生涯教育委員会　第3回若手論文賞
西浦千尋先生
（東京ガス(株)人事部　安全健康・福利室）

櫻谷あすか先生
（東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻精神保健学分野）

平成30年度　安全衛生に係る優良事業場、団体又は功労者に対する厚生労働大臣表彰

功績賞
國友史雄先生
（千葉労働局　地方じん肺診査医）

千葉宏一先生
（ちば労働衛生コンサルタント事務所　所長）

山田憲一先生
（中央労働災害防止協会労働衛生調査分析センター　上席専門役）

安全衛生推進賞
瀧澤弘隆先生
（(一財)柏戸記念財団ポートスクエア柏戸クリニック　理事）

千代田区制71周年記念表彰
「保健衛生功労分野」
及川孝光先生
（(医)こころとからだの元氣プラザ）

※2018年4月21日(土)に新宿御苑において開催された「**桜を見る会**」(主催:安倍晋三内閣総理大臣)に、**柳澤裕之氏(関東地方会長)**と**田中　茂氏(関東産業衛生技術部会長)**が、永年の活動の顕著な功績により招待されました。

奨励賞受賞の声

吉川　徹（安衛研）

第91回日本産業衛生学会で奨励賞をいただき大変光栄に感じている。

私は、1996年に産業医科大学を卒業後、都立墨東・駒込病院で臨床研修を行ない、2000年に労働科学研究所(当時)に入所後、対策指向型(Action-oriented)の職場環境改善に関する研究を行ってきた。特に、(1)職業性感染症の疫学と予防、(2)メンタルヘルスと職場環境改善、(3)労働者参加型職場環境改善の開発と普及などに取り組んだ。今回の受賞は、産業衛生分野における「職場改善ツールの開発」において、特に顕著な業績をあげていることが受賞理由と評価いただいた。

現在、労働安全衛生総合研究所において、過労死・過労自殺の労災認定事案の分析研究に力を入れている。労災認定に関わる調査復命書を読みながら、現場データの大切さを痛感している。被災者本人のつらさ、ご家族・ご遺族、職場の上司・同僚の気持ちに思いをめぐらせ、どうしたら予防できただろうかと考える毎日である。過労死・過労自殺の予防のためには、過重労働や心理的な負荷の軽減と災害防止、よりよい職場づくりの両面の視点が必要である。産業保健専門職の関わり方も鍵である。犯人捜しでなく解決を試みようとしている現場の知恵、すでに行われている予防に関わる良好事例の収集を継続したい。今後も労使の自主的な取り組みを支える産業保健チームに役立つ職場改善ツール開発研究や技術開発を進めたい。

本受賞は、川上　剛先生(ILO)、小木和孝先生(大原記念労働科学研究所)、酒井一博先生(同)はじめ現所属の労働安全衛生総合研究所の皆様のご指導の成果である。また、産業医科大学と共同研究者の先生方、研究や実務にご助言、ご協力をいただいた皆様、特に、今回の奨励賞にご推薦下さった宮本俊明先生(新日鐵住金)、五十嵐千代先生(東京工科大)には、心から感謝したい。

研究成果等は下記に公開している。
https://researchmap.jp/read0063276/

本年度関東地方会選挙について

日本産業衛生学会関東地方会選挙管理委員会
委員長　加藤憲忠(富士電機)

公益社団法人日本産業衛生学会定款第8条、代議員の選任に関する規則第3条、役員の選任に関する規則第4条、地方会に関する規則第4条、関東地方会細則及び関東地方会選挙細則等に基づき、代議員および関東地方会長の選挙を実施いたします。選挙に関する詳細は、関東地方会選挙管理委員会から送付される選挙についての公告をご参照ください。

本年度も、代議員および関東地方会長選挙ともに**インターネットによる電子選挙(電子立候補、電子推薦および電子投票)**となります。選挙に関するご案内やご連絡は、日本産業衛生学会ホームページおよび**日本産業衛生学会関東地方会ホームページまたは電子メール**により行われます。そのため、必ず**日本産業衛生学会ホームページへログイン**し(http://www.sanei.or.jp/)、所属変更のご登録や学会からの連絡先、特に**受信可能な電子メールアドレスのご登録**をお願い致します。また、選挙権・被選挙権は**会員歴が2年以上あり、平成29年度及び平成30年度の会費を平成30年7月31日までに納入した関東地方会所属の正会員にのみ与えられます。**会費納入状況の確認も、上記ホームページログイン後の入金履歴欄から可能です。なお、**選挙権・被選挙権がないと、ログインしても電子選挙が表示されません**ので、ご承知おきください。

公示日：平成30年7月1日
地方会長立候補、代議員立候補の締め切り：
平成30年8月31日(予定)
地方会長および代議員選挙投票の締め切り：
平成30年10月21日(予定)

地方会長選挙に立候補するには3名の正会員からの推薦が必要です。また代議員選挙では被選挙人の他薦は認められていません。

インターネットによる電子選挙システムの詳細に関しては、送付される公告および案内等をご覧ください。関東地方会ホームページにも掲載されております(http://jsohkant.umin.jp/)。

産業保健実践活動報告(第 36 回)

千葉県産業衛生協議会
会長　宮本俊明(新日鐵住金)

千葉県産業衛生協議会は、1959年に前身の研究会が発足し、歴史ある任意団体として現在まで続いている。当会の発足当時には千葉県の東京湾沿いが埋め立てられて工場群が多数進出し、労働衛生や環境問題について対応方法が未知の問題も多く発生していた。そのため、当初は「医師である衛生管理者」の勉強会として始まり、すぐに衛生管理者も加わることとなり、年3～4回の勉強会を開催してきた。

当会の特徴は事業場を会員としていることであり、異動で担当者が代わっても手続きなしで勉強に参加できることが特徴である。現在では産業医、保健師・看護師、衛生管理者、人事労務担当者、歯科医師等、事業場の産業保健に関連する多職種が一堂に会して勉強し意見交換をする会として、間もなく第200回記念大会を2018年9月27日に迎えようとしている。当会は千葉県のみならず日本の産業保健の現場的な課題を、いち早く取り上げて議論してきた歴史があり、日本産業衛生学会の副理事長であった故荘司榮徳先生が当会の会長を3期6年務められたほか、産業衛生学会関東地方会一泊例会が千葉県で開催される際には全面協力するなど、千葉県の産業保健の技能向上に大いに寄与してきたと考えている。当会運営の幹事役員も会員事業場の専門職から選出しており、役員には若手から中堅を入れて現場の悩みを少しでも解決する場とするほか、最近は事業場の相互見学を復活させるなど、受け身の研修会では味わえない議論の場も提供している。

第200回大会という節目を迎えて、今後は県内の工業地帯や大規模商業施設に近い場所でも開催するなど、より現場に近い企画を検討しているところである。また、個人開業の専門職も増えてきたため、個人会員資格も検討しているところである。時代のニーズに合わせて当会も変革しながら、歴史を繋げていきたいと考えている。

関東地方会例会プログラム一覧

・第 280 回例会

(第 43 回関東産業衛生技術部会)

当番幹事:田中 茂（十文字学園女子大）
開催期間:2018 年 2 月 10 日(土)
会場:十文字学園女子大学（新座市）
テーマ:**「化学物質のけい皮吸収ばく露を考える」**

【プログラム】

1. オルトトルイジン曝露による膀胱がん発症について
   中野真規子（慶應大・医・衛生学公衆衛生学）
2. 経皮のばく露評価の重要性
   片桐律子（CERI・安全性評価技術研究所）
3. 化学防護手袋の必要性と有害性情報
   石井聡子（CERI・安全性評価技術研究所）
4. 取扱い物質と化学防護手袋の材質の関係
   北村公義（CERI・安全性評価技術研究所）
5. 製造現場における化学物質のけい皮吸収曝露への対応
   上村達也（化成品工業協会）
6. 産業保健における化学物質管理の今後について
   武林 亨(慶應大・医・衛生学公衆衛生学)

・第 281 回例会

企画運営委員長:**照屋浩司（杏林大）**
当番幹事:岡本博照（杏林大）
開催期間:2018 年 4 月 21 日(土)
会場:杏林大学 井の頭キャンパス（三鷹市）
テーマ:**「職場におけるストレスチェック後の対応について」**

【プログラム】

1. 最近の労働安全衛生行政の動向について
   中山 篤（東京産業保健総合支援センター）
2. ストレスチェック後の対応について 総論的視点から
   角田 透（了徳寺大・医学教育センター）
3. ストレスチェック後の医師面接・補助面接について―産業医の立場から―
   福本正勝（(株)i・OH 研究所）
4. ストレスチェック後の面接指導について
   小薬理絵（ピースマインド・イープ(株)）

・第 282 回例会・第 62 回見学会

企画運営委員長:**諏訪園 靖（千葉大）**
当番幹事:能川和浩（千葉大）
開催期間:2018 年 7 月 6 日(金)・7 日(土)
会場:三井ガーデンホテル千葉（千葉市）
テーマ:**「快適環境と安全配慮、リスク管理」**

＜7 月 6 日(金)＞

【見学会】

①千葉県警察本部/ 千葉市中央区
②高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター/ 千葉市美浜区
③三井化学 市原工場/ 千葉県市原市
④イオンスタイル幕張新都心/ 千葉市美浜区

【例会 1 日目】

基調講演

「働き方と産業保健」
座長:能川浩二（千葉産業保健総合支援センター）
演者:諏訪園 靖（千葉大・院・環境労働衛生学）

講演①

「産業保健における実践と研究」
座長:宮本俊明（新日鐵住金(株) 君津製鉄所）
演者:中川秀昭（金沢医大・総合医学研究所）

＜7 月 7 日(土)＞

【例会 2 日目】

シンポジウム

「快適環境と安全配慮、リスク管理」
座長:城戸照彦（金沢大・医薬保健研究域）
　　山瀧 一（君津健康センター産業保健部）
シンポジスト:
吉田 明（YKK(株)）
黒葛原 歩（みはま総合法律事務所）
田中 完（新日鐵住金(株) 鹿島製鉄所）
森本英樹（森本産業医事務所）
中野愛子（(株)日立製作所）

講演②

「化学物質管理の現状とこれから」
座長:諏訪園 靖（千葉大・院・環境労働衛生学）
演者:櫻井治彦（産業医学振興財団）

第 280 回例会報告

津田洋子(帝京大)

2018年2月10日（土）に十文字学園女子大学において関東地方会第280回例会（第43回関東産業衛生技術部会を兼ねる)を開催した。「化学物質のけい皮吸収ばく露を考える」のテーマで6名の研究者や実務者に講演していただいた。会員80名、非会員38名の産業医、衛生管理者、労働安全衛生担当者、研究者、労働安全衛生保護具メーカー担当者などが参加した。

まず、中野真規子先生（慶應大）よりオルトトルイジン等芳香族アミンへのばく露による膀胱がん発症事例の疫学調査について、その経緯や調査結果から推察されるけい皮吸収等についてご説明いただいた。続いて、片桐律子先生（化学物質評価研究機構）より化学物質のリスク評価におけるけい皮ばく露評価の重要性と現状について、石井聡子先生（同機構）より化学物質のけい皮吸収量の推定方法や有害性情報について、北村公義先生（同機構）より取扱い化学物質の透過性を考慮した化学防護手袋選定の重要性について解説された。また、上村達也先生（化成品工業協会）から、実際に化学物質を使用している製造現場での対応、ばく露防護のための活動や課題等について報告された。最後に、武林　亨先生（慶應大）から、化学物質ばく露レベルの低減に伴いけい皮吸収ばく露の寄与が相対的に大きくなりうることや、その課題についてご講演いただいた。

参加者からは実際の使用場面を想定した質問等もあり、多くの参加者が化学物質のけい皮吸収ばく露対策に苦慮している現状が垣間見られるとともに、講演者らの研究結果に大きな期待を寄せていることがうかがえた有意義な例会であった。

第 281 回例会報告

岡本博照（杏林大）

2018年4月21日（土）、第281回例会を、杏林大学・井の頭キャンパスにて開催した。参加者数は会員113名、非会員72名の合計185名であった。「職場におけるストレスチェック後の対応について」をテーマに、4名の先生が講演を行った。

まず、労働衛生行政専門家の先生から、わが国の過重労働等を取り巻く状況とその動向、働き方改革に関する詳細な解説、第13次労働災害防止計画の概要、について講演していただいた。

その後ストレスチェック後の対応について、総論的な視点、産業医の立場、心理職の立場、といった多角的視点から、それぞれの分野の専門の先生から講演していただいた。

総論的視点からの講演では、わが国のメンタルヘルス対策の経緯、ストレスチェック制度の概要とその意義についてお話があった。そして高ストレス者の面接指導については、長時間労働者への医師による面接指導と比較した具体的な解説をしていただいた。

産業医の立場からの講演では、高ストレス者の面接指導の現状報告のほか、実際の面接指導に必要な準備や、面接する医師の心構え等、現場に役立つ情報を提供していただいた。

心理職の立場からの講演では、心理職から見た高ストレス者の面接指導の現状や、面接指導に対する企業の意見等が報告された。また面接指導における医師と心理職との連携を目指した、心理職の活用等についても解説をしていただいた。

制度施行から3年目ということもあり、ストレスチェックに携わる方々に対して、関心の高い話題の知見を提供することで、有意義な例会が開催できたのではないかと考えている。ご多忙にもかかわらずご登壇いただいた演者の先生方、開催にご協力いただいた皆様方に深く感謝いたします。

第 282 回例会（一泊）及び第 62 回見学会報告

能川和浩（千葉大）

2018年7月6日（金）・7日（土）、関東地方会第282回例会（一泊）・第62回見学会を三井ガーデンホテル千葉にて開催した。昨今の産業保健を取り巻く社会情勢に照らし合わせ、例会テーマを「快適環境と安全配慮、リスク管理」とした。参加者は182名（見学会107名）と想定を上回る多くの参加を得た。

第62回見学会は、①千葉県警察本部②障害者職業総合センター③三井化学市原工場④イオンスタイル幕張新都心で開催した。千葉県警（写真1）では、交通管制センターと110番通報を受理し現場に指示をする通信指令室を見学した。障害者職業総合センターでは、障害者の就労支援方法の研究開発や実際の施設の利用について説明を受けた。三井化学では、工場見学のあと化学工場特有の事故症例について解説をいただいた。イオンスタイル幕張新都心では、普段見ることのできない店舗のバックヤードを見学し、小売業特有の職場環境について説明を受けた。

写真 1　千葉県警本部庁舎体験エリア

第282回例会は、最初に諏訪園　靖企画運営委員長による基調講演「働き方と産業保健」を行った。働き方改革に焦点をあて、生産性の向上と健康の保持増進について問題提起がなされた。次に金沢医科大学の中川秀昭先生から「産業保健における実践と研究」というテーマで講演がなされた。中川先生が統括産業医として関わっている企業での産業保健活動とその研究成果が紹介され、特に退職者の追跡調査で「この会社に勤めれば長生きすることができる」ことを証明し、その結果を従業員に対して還元していることが印象的であった。このあと懇親会を開催し65名と多くの参加を得た。

第2日目には「快適環境と安全配慮、リスク管理」と題しシンポジウムを行った（写真2）。まずYKKの吉田　明副社長から企業経営者の視点を通して、従業員の健康保持の重要性と企業理念に基づいた施策について講演いただいた。弁護士の黒葛原歩先生からは、企業の安全配慮義務について労働者側の視点から講演いただき、実際の判例をもとに業務量や心理的負荷の軽減に関する具体的な配慮について解説いただいた。田中　完先生からは専属産業医の視点から、安全配慮義務と合理的配慮の関係について講演をいただき、実際の有害作業におけるリスク管理においてどこまで合理的配慮がなされるべきか考察をいただいた。森本英樹先生からは、嘱託産業医・社労士の視点から高齢就労と両立支援の困難さといった中小企業における課題について解説いただいた。中野愛子先生からは産業看護職の視点から、大企業の中の小規模事業所での保健師の活動事例を通して、産業保健サービス格差を縮小しリスク管理に寄与していることが紹介された。最後に、櫻井治彦先生から「化学物質管理の現状とこれから」と題し、化学物質のリスクアセスメントを中心に講演いただいた。特に小規模事業所での化学物質管理についての問題提起がなされ、今後、そのような場所でもリスクアセスメントがなされしっかり管理することが期待されると述べられた。

写真 2　シンポジウムのディスカッション

本例会の開催にあたり、県市医師会、千葉県産業衛生協議会をはじめとする県内の諸先生方に多大なご支援をいただいた。この場をかりて御礼申し上げる。

関東産業医部会報告

西埜植規秀
（にしのうえ産業医事務所）

【第28回全国協議会について】

2018年9月に東京で開催される日本産業衛生学会全国協議会の開催に向け、関東産業医部会でも他の部会と連携協力し、準備を進めている。

担当する産業医部会自由集会では、現代社会の課題とされる中小企業の産業保健の活性化、特にその産業保健活動を担うべく、「嘱託産業医の現状と課題」をテーマにあげ、中小企業の産業保健という社会的ニーズに対し、解決していくための課題と対応、連携、支援などについて、嘱託産業医だけでなく専属産業医の先生方も含めて意見交換ができればと考えている。多くの先生方の参加と活発な討論をお願いしたい。

日時：2018年9月15日（土）　16時30分～18時30分
場所：東京工科大学蒲田キャンパス3号館10階31013教室　（第6会場）
テーマ：「嘱託産業医の現状と課題　～中小企業への関わり、連携、支援～　」
座長：福本正勝（株式会社i・OH研究所）、
　　菅原　保（医療法人健友会　本間病院）

1　嘱託産業医による産業保健活動の現状と課題
　寺田勇人(高輪労働衛生コンサルタント事務所)
2　嘱託産業医の事業場におけるニーズと産業医活動の課題
　福本正勝(株式会社i・OH研究所)
3　大規模事業場と分散事業場、関連企業などとの連携、協力の現状とあり方
　中谷　敦(株式会社日立製作所)
4　総合討論

【産業医部会研修会】

平成30年度医部会主催の産業医研修会は例年通り、2019年1月頃に開催予定である。詳細については今後、日本産業衛生学会産業医部会HP(http://www.on-top.net/ibukai/)や日本産業衛生学会関東地方会HP(http://jsohkant.umin.jp/)に掲載するのでご確認いただきたい。

関東産業看護部会報告

中野愛子（日立製作所）

2017年度の関東産業看護部会研修会が、2018年1月20日（土）東京工科大学　蒲田キャンパスにて開催された。本年度は、「ワンランクUP！個人と組織への効果的なアプローチ方法を身につける」をテーマに、産業看護職としての効果的なアプローチ方法について、ビジネススクール等で活用されているケースメソッド法を用いて振り返った。続いて、経験豊富な産業看護職の実践報告等を通して戦略的な個別・組織アプローチのあり方を考える機会とした。

午前の部では、ケースメソッド法を用いて

- 労働生活全般を包括的な視点でアセスメントすると共に当事者のやる気やセルフケア能力を向上させる保健指導
- 個別指導における様々な資源や職種の連携調整
- 結果や成果を出す保健指導の進め方

等、グループワークを中心としたディスカッションを通して気づきや対応についてまとめ、グループごとに発表した。

午後の部では、まず東京有明医療大学看護学部の掛本知里先生によるミニ講義「発信力を高めて産業看護活動をアピールしよう」の後、以下の活動別に関東産業看護部会幹事から報告された。

① 社内へのアピール（衛生委員会や経営層に向けたプレゼンテーションや資料作成、アプローチ方法等）
② 学会での発表（学会）
③ 社外への発信（GPS）

参加者は38名で、グループワークは経験豊富な産業看護職のファシリテータによる進行もあり、研修会は概ね好評だった。

関東産業看護部会では、今年度、第28回日本産業衛生学会全国協議会において有害物質管理の基本的知識に関する講義と演習（グループワーク）の研修会を予定している。多くの産業看護職にご参加いただきたい。

関東産業衛生技術部会報告

田中 茂（十文字学園女子大）

2018年5月9日(水)13時30分～16時30分、大宮ソニックシティ国際会議場において、第44回関東産業衛生技術部会研修会を埼玉産業保健総合支援センターと共催で「熱中症対策セミナー」を以下のプログラムで開催した。

(1) 建設業における熱中症対策について
　齊藤宏之先生(労働安全衛生総合研究所)
(2) 熱中症対策のための新しい保護具・測定機器について
　田中　茂(十文字学園女子大・院)
(3) 製造業等における熱中症対策について
　加部　勇先生(クボタ(株))

参加者は産業医、衛生管理者、産業看護職、コンサルタント、事業主等、合計120名であった。

齊藤先生は、厚生労働省等の熱中症対策の委員会に参加しており、今年度の「STOP！熱中症　クールワークキャンペーン」の内容について解説をするとともに、近年の熱中症の発生状況の特徴や、建設業を中心とした実際の作業現場での対策事例を紹介した。更に、先生の研究成果として、JIS規格に適合した暑さ指数計でWBGT値を測るように指導されたことが注目された。

次に、新しい熱中症対策として①水分、塩分の摂取　②環境や体を冷やす　③応急措置　④WBGT測定器　⑤その他について、展示協力メーカー8社に商品を紹介してもらい、田中から補足説明を加えた。

加部先生は事業場における具体的な熱中症対策事例や、救急処置等について、ご経験をふまえた内容の講義を行った。

今回の講演では、最近の熱中症対策についての情報が提供され、参加者には大変役立つ内容となったと思われるが、会場の使用時間の制限があり、参加者との意見交換の時間がほとんどとれなかったことが主催者の一人として残念であった。

関東産業歯科保健部会報告

森 智惠子（日立製作所）

平成29年度関東産業歯科保健部会研修会が、2018年2月3日（土）に、「エビデンスをどのように現場に活かすか」をテーマとして、東京医科歯科大学7号館で開催された。参加者は22名であった。

座長の佐々木好幸先生（東医歯大）が、EBMの実践を行う重要性は近年ますます認識されているが、その実践にはEBMについて誤解せず、エビデンスに関する正しい知識をつけることが前提になると、本研修会の趣旨を話された。

まず「基調講演」として湯浅秀道先生（豊橋医療センター）は、EBMとはどのようなものであるか、エビデンスの信頼性や確実性をどのように見分けていくか等についてGRADEシステムを解説され、産業歯科保健で重要な職業性酸蝕歯の研究例を挙げて、PubMedを用いたシステマティックレビューの検索方法や診療ガイドラインの入手方法を紹介された。文献検索が苦手な受講者でもすぐに実践できる非常に有益な内容であった。

続いて安藤彰啓先生（あんどう歯科口腔外科）が「Orofacial PainのEvidence」と題して、日常臨床の中での冷静な観察、記録や情報の整理の中で、多くのエビデンスを整理しピックアップして活用している実践報告を、口腔・顎顔面領域では最も一般的な問題である「痛み」を取り上げて、分かりやすくご講演いただいた。

今回は口腔保健関係者にとって身近な問題から、EBMとエビデンスを考えられた貴重な研修会となった。

部会フリーページ

「特定健診・特定保健指導」の問診項目に「咀嚼」の項目が入りました。

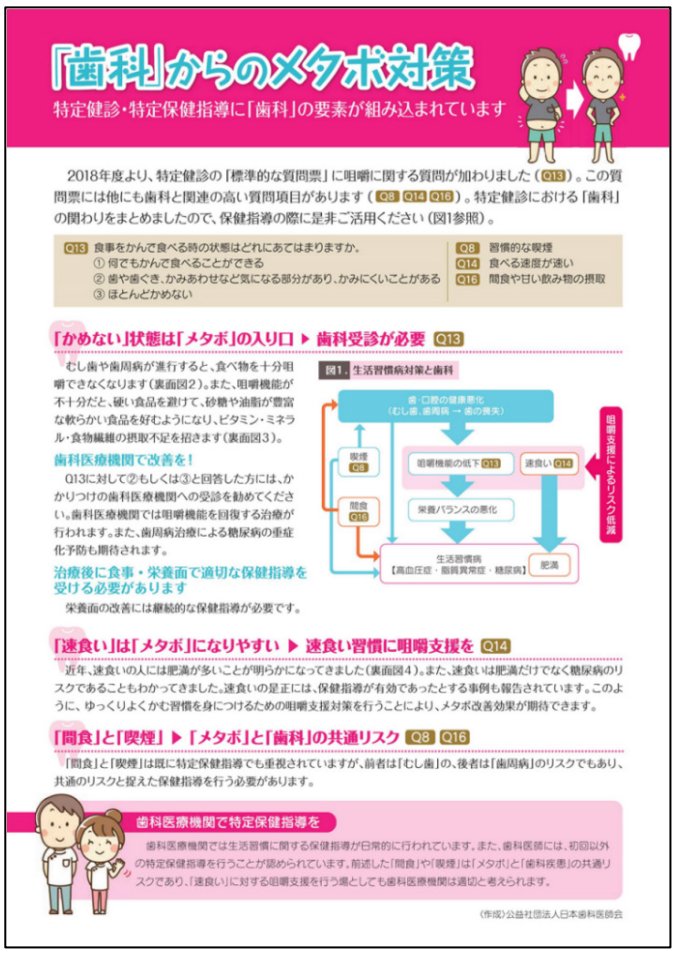
尾崎　哲則
(関東産業歯科保健部会、日本大学歯学部医療人間科学)

今年の特定健診・特定保健指導の改正(第3期:2018～2022年度)で、「標準的な質問票」に咀嚼に関する質問が入りました。

第1期～第2期(2008～2017年度)の特定健診・特定保健指導には、少ないながら、特定健診・特定保健指導のなかで、既に「歯科」の要素が組み込まれている保険者もありましたが、標準的なものは「歯科」が組み込まれていない状況でした。そこで、今回紹介するリーフレットは、特定保健指導を行う際、新たに組み込まれた「歯科」の要素を、対象者に効果的に伝えていただくポイントをまとめたものです。

このリーフレットと併せて、日本歯科医師会では、初回の保健指導を行う担当者「医師・保健師・管理栄養士」向けの指導者手引きも作成しました。リーフレットはすでに配布を開始しています。

特定健診の問診項目には、従来から喫煙習慣、速食い、間食・甘味摂取の 3 つが入っていましたが、今回は「食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか？」とかなり具体的に聞いています。右のパンフレットの Q13-①の「何でもかんで食べることができる」以外の回答の場合、基本的には歯科受診で改善を図るしかないと考えられます。しかし、お口の状況が良くなっても、しっかりとした栄養指導をしないと、食生活はお口の状況が悪いときと変わらない事が知られており、保健指導と連携を持って歯科受診がなされることが求められています。さらに、従来からの 3 項目についても、「喫煙」は歯周病や口腔粘膜疾患との関連性を周知していくこと、「速食い」については速食いの是正が肥満防止には必要であることを伝え、行動目標として選んだ場合、その指導法をアドバイスすること、さらに「間食・甘味摂取」はむし歯のリスクでもあることを改めて情報提供することなど、共通リスクをもつ歯科からの保健指導を通して、生活習慣病の予防・改善につなげていければと考えて、このリーフレットを作成しました(下図は「日本歯科医師会　歯科からのメタボ対策」にリンクがはられています)。



「歯科」からのメタボ対策

特定健診・特定保健指導に「歯科」の要素が組み込まれています

2018年度より、特定健診の「標準的な質問票」に咀嚼に関する質問が加わりました(Q13)。この質問票には他にも歯科と関連の高い質問項目があります(Q8 Q14 Q16)。特定健診における「歯科」の関わりをまとめましたので、保健指導の際に是非ご活用ください(図1参照)。

Q13 食事をかんで食べる時の状態はどれにあてはまりますか。
① 何でもかんで食べることができる
② 歯や歯ぐき、かみあわせなど気になる部分があり、かみにくいことがある
③ ほとんどかめない

Q8 習慣的な喫煙
Q14 食べる速度が速い
Q16 間食や甘い飲み物の摂取

「かめない」状態は「メタボ」の入り口 ▶ 歯科受診が必要 Q13

むし歯や歯周病が進行すると、食べ物を十分咀嚼できなくなります(裏面図2)。また、咀嚼機能が不十分だと、硬い食品を避けて、砂糖や油脂が豊富な軟らかい食品を好むようになり、ビタミン・ミネラル・食物繊維の摂取不足を招きます(裏面図3)。

歯科医療機関で改善を!

Q13に対して②もしくは③と回答した方には、かかりつけの歯科医療機関への受診を勧めてください。歯科医療機関では咀嚼機能を回復する治療が行われます。また、歯周病治療による糖尿病の重症化予防も期待されます。

治療後に食事・栄養面で適切な保健指導を受ける必要があります

栄養面の改善には継続的な保健指導が必要です。

図1. 生活習慣病対策と歯科

「速食い」は「メタボ」になりやすい ▶ 速食い習慣に咀嚼支援を Q14

近年、速食いの人には肥満が多いことが明らかになってきました(裏面図4)。また、速食いは肥満だけでなく糖尿病のリスクであることもわかってきました。速食いの是正には、保健指導が有効であったとする事例も報告されています。このように、ゆっくりよくかむ習慣を身につけるための咀嚼支援対策を行うことにより、メタボ改善効果が期待できます。

「間食」と「喫煙」▶「メタボ」と「歯科」の共通リスク Q8 Q16

「間食」と「喫煙」は既に特定保健指導でも重視されていますが、前者は「むし歯」の、後者は「歯周病」のリスクでもあり、共通のリスクと捉えた保健指導を行う必要があります。

歯科医療機関で特定保健指導を

歯科医療機関では生活習慣に関する保健指導が日常的に行われています。また、歯科医師には、初回以外の特定保健指導を行うことが認められています。前述した「間食」や「喫煙」は「メタボ」と「歯科疾患」の共通リスクであり、「速食い」に対する咀嚼支援を行う場としても歯科医療機関は適切と考えられます。

(作成)公益社団法人日本歯科医師会

研　究　室　紹　介

北里大学医療衛生学部健康科学科
衛生管理学・産業保健学

教授　太田久吉

大学での衛生管理者教育を目的として昭和43年に北里大学衛生学部産業衛生学科に衛生管理学教室が開設され、その後平成6年に衛生学部から医療衛生学部に組織替えし、健康科学科と学科名が変更された。歴代教授は、宮下道夫先生、高田　勗先生、大道　明先生、今宮俊一郎先生、関　幸雄先生、そして平成14年4月より太田久吉が教室運営を行っている。研究室は、薮田十司講師（作業環境管理学）、大場謙一講師（分子生物学）、中国からの留学生で医療系大学院環境毒医科学修士課程の祁永剛君と筆者の4名で構成されている。

これまで、職場で働く人々の健康確保、快適職場形成に関する多くの労働衛生管理スタッフを、行政機関、企業の労働衛生管理部門、健診・測定機関に輩出している。また、第二種作業環境測定士の養成教育を行っている。

現在、職域健診や作業環境管理に関する研究、低濃度カドミウムの腸管吸収メカニズムと生体影響（骨代謝及び腎機能、母子間移行と雌雄生殖毒性）に係わるメタロチオネイン及び金属輸送蛋白質の関与に関する研究、低濃度化学物質の生体影響評価に関する分子疫学的研究、有害物質（粒子状・ガス状物質）の捕集・分析技術に関する研究および未規制物質の捕集分析方法の研究等をテーマに、大学院生や卒論生とともに研究を行っている。日本産業衛生学会、労働衛生工学会、日本毒性学会、日本環境変異原学会、日本衛生学会、日本微量元素学会等で活動している。

（中央が筆者）

衛生管理者の集う会より

對木博一（アール）

●第91回日本産業衛生学会／衛生管理者の集う会・自由集会「チームで真実を探す！疾病と仕事の両立支援について」（5月17日（木）、くまもと県民交流センター）

約40名が参加し双方向の意見交換を行った。まず、江口　尚氏（北里大）からは、両立支援のガイドラインと基本的な考え方を、吉積宏冶氏（吉積労働衛生コンサルタント事務所）には、がん就労の実例と衛生管理者と産業医の連携について、中村　修氏（筑波大）には、難病に罹患した研究者の実例についてご紹介いただいた。最後に對木（アール）より、企業と人事労務の視点から、就業制限に伴う業務変更には、本人がやりがいを感じることができるようなマッチングを行い、企業と本人がWIN-WINの関係を作っていくことが重要であると説明させていただいた。質疑応答では、疾病を抱える労働者の公正な評価制度や基準、企業風土や理念の問題と衛生管理者のより具体的な活動内容を明確にするべきとのご意見を賜った。

●第4回交流研修会（5月26日（土）、慈恵医大）

今回提起されたディスカッションは、「職場巡視について」と「過重労働問題」の2点であった。職場巡視については、事前準備による法律やハード面への確認、作業方法や人間関係などのソフト面の情報取集等に加え、現場とのパイプ作りも重要な目的であることを確認した。過重労働問題では、疲労困憊させ医師面談となる前に1次予防を考え直し、モチベーションと蓄積疲労のバランス、OJTと人材育成、作業負荷と生産性と健康について議論した。全国協議会の中で行われる公募企画7「過重労働問題に対する労務・労働衛生マネジメント実務について」（9月16日（日）、東京工科大学蒲田キャンパス3号館10階　31013教室（第6会場））においても、さらに議論を深めていきたいと考えている。

詳細は下記ホームページをご覧願いたい。

HPリンク：　https://www.tsudoukai.com/news

通達・行政ニュース

山本健也（東京大）

第13次労働災害防止計画

2018年4月～2023年3月までの5年間を計画期間とする「第13次労働災害防止計画（13次防）」が2018年3月19日に公示された。8つの重点事項（1.死亡災害の撲滅を目指した対策の推進、2.過労死等の防止等の労働者の健康確保対策の推進、3.就業構造の変化及び働き方の多様化に対応した対策の推進、4.疾病を抱える労働者の健康確保対策の推進、5.化学物質等による健康障害防止対策の推進、6.企業・業界単位での安全衛生の取組の強化、7.安全衛生管理組織の強化及び人材育成の推進、8.国民全体の安全・健康意識の高揚等）に再整理された項目には、12次防から継続する対策のほか、新たに「治療と職業生活の両立支援」や過労死等防止対策の一環としての「産業医・産業保健機能の強化」、「副業・兼業やテレワークを行う労働者の健康確保」、今後増加が見込まれる石綿使用建築物の解体等工事への対策強化、等が盛り込まれている。なお12次防から導入された数値目標の設定は今回も採用されており、衛生分野では「労働者の職場での相談先の確保（90％以上）、メンタルヘルス対策に取り組んでいる事業場数（80％以上）、ストレスチェックの集団分析結果の活用事業場数（60％以上）、GHS分類に基づく化学物質のラベル表示と安全データシート（SDS）の交付（80％以上）、第三次産業及び陸上貨物運送事業の腰痛による死傷者数（対2017年比5％以上減少）、職場での熱中症による死亡者数（過去5年間と比較して5％以上減少）」などが設定されている。

過労死等の防止のための対策に関する大綱の変更

2018年7月24日に「過労死等の防止のための対策に関する大綱」の変更が閣議決定された。この変更では、新たに勤務間インターバル制度の周知や導入に関する数値目標（2020年までに制度導入企業割合10％以上）など3つの分野の数値目標の設定、調査研究における重点業種等に新たに建設業・メディア業界を追加、職場のパワーハラスメント・セクシュアルハラスメント・妊娠出産等に関するハラスメントを包括的に「職場におけるハラスメント」としてその予防・解決のための取組、などが掲げられており、今後行政施策等が整備される予定である。なお、新たに掲げられた数値目標のうち「相談先がある労働者の割合を90％以上」「ストレスチェック集団分析結果の活用（60％以上）」は13次防にて既に掲示されている。

墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン（平成30年6月22日基発0622第2号）

労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令において「安全帯」が「墜落制止用器具」に名称変更され、また「フルハーネス型」を使用することが原則となり、また「高さが2m以上の箇所であって作業床を設けることが困難なところにおいて墜落制止用器具のうちフルハーネス型のものを用いて行う作業に係る業務」が特別教育の対象となった。

働き方改革関連法

2018年6月29日の法律案成立を受け、働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律（平成30年7月6日法律第71号）が公布された。残業時間の上限規制・有給休暇の取得促進・勤務間インターバル制度の普及促進・産業医の機能強化・高度プロフェッショナル制度創設などの主な施策について、2019年4月施行（中小企業等は一部猶予期間あり）にむけた省令等の法整備が今後予定されている。

理事会報告より

柳澤裕之（慈恵医大）

平成30年度第1回（2018年4月14日開催）

審議事項

1. 平成29年度事業報告が説明され承認された。
2. 平成29年度決算報告が説明され承認された。
3. 学会誌の制作と運用について、今後の方針が説明され承認された。
4. 専門医制度委員会の施設登録料改定について説明され承認された。
5. 学会賞選考細則の変更が提案され承認された。
6. 理事、代議員の定年制（70歳）が提案され承認された。
7. ダイバーシティ推進委員会の設置が提案され承認された。

報告事項

1. 第91回日本産業衛生学会(熊本)の準備状況が報告された。
2. 第92回日本産業衛生学会(名古屋)の準備状況が報告された。
3. 第94回日本産業衛生学会は北陸甲信越地方会が担当することになった。
4. 第27回全国協議会(高知)の会計が報告された。
5. 第28回全国協議会(東京)の準備状況が報告された。
6. 第30回全国協議会は九州地方会が担当することになった。
7. 優秀論文賞、優秀査読者賞、ベストGP賞、GP奨励賞が決定された。
8. 中央選挙管理委員会から委員の選任と委員長互選結果が報告された。
9. 治療と就労の両立支援に関する診療報酬について説明があった。
10. 第13次労働災害防止計画について説明があった。

幹 事 会 報 告 よ り

与五沢真吾（慈恵医大）

平成29年度 第4回（2018年2月10日開催）

1. 柳澤裕之地方会長より、選挙の電子化に伴い選挙管理委員会の構成人数を減らして6名にしたいとの提案があり、承認された。
2. 原 邦夫幹事の異動による退任の挨拶があった。後任には福田吉治氏（帝京大）の就任が承認された。なお、予定されていた2018年11月17日（土）の第283回例会は、福田新幹事の下で開催される。
3. 柳澤地方会長より、平成30年度予算における学会本部への資金貸出の依頼について説明があった。
4. 第279回例会について、稲垣弘文当番幹事より総括があった。
5. 当日の第280回例会について、田中 茂当番幹事より説明があった。
6. 第281回例会および拡大幹事会(2018年4月21日（土）、杏林大井の頭キャンパスF棟、岡本博照当番幹事)について、準備状況が報告された。
7. 第282回例会(一泊)・第62回見学会について、能川和浩当番幹事より準備状況が報告された。開催日は2018年7月6日（金)～7日（土)、会場は、三井ガーデンホテル千葉、見学会は①千葉県警察本部（千葉市中央区）、②高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター（千葉市美浜区）、③三井化学(株)市原工場（千葉県市原市）の他、もう1か所千葉市内の事業所に依頼中。
8. 関東産業医部会の谷山佳津子幹事から、日本産業衛生学会関東産業医部会産業医研修会（2018年1月13日（土））について報告があった。
9. 関東産業看護部会の伊藤雅代幹事から、平成29年度日本産業衛生学会関東地方会産業看護部会研修会(2018年1月20日（土） 、東京工科大蒲田キャンパス)について報告があった。
10. 関東産業歯科保健部会の森 智恵子幹事から、関東産業歯科保健部会研修会（2018年2月3日（土)、東医歯大7号館）と今後の予定について報告があった。また、平成30年度関東産業歯科保健部会研修会（2019年2月9日（土)、東医歯大）について説明があった。
11. 衛生管理者の集う会の對木博一幹事から、衛生管理者の集う会幹事会(2018年2月10日（土))の報告と、第1回交流会（2018年2月17日（土)、昭和大旗の台キャンパス）について案内があった。
12. 多職種連携の会の能川和浩幹事から、第3回参加型研究会（2017年10月28日（土)、慈恵医大2号館）および第4回研究会（2018年1月20日（土)、秋葉原UDX）について報告があった。
13. 理事会報告として、柳澤地方会長より第28回全国協議会（東京）の準備状況や1-ブロモプロパン裁判の進捗状況等について説明があった。
14. 第90回日本産業衛生学会の須賀万智統括委員長より、学会中の写真の閲覧をインターネット経由でできるようにする旨、説明があった。
15. 及川孝光幹事より、健診現場で有用な「脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャートについて」について紹介され、今後の修正点等について意見を募集しているとの説明があった。

平成30年度 第1回（2018年4月21日開催）

1. 福田幹事より就任の挨拶があった。
2. 平成29年度事業報告・決算および会計監査、平成30年度事業計画および予算が報告され、それぞれ承認された。

3. 照屋理事より、本年度関東地方会地方会長・代議員選挙について説明があった。本年度も電子投票システムを用いるが、電子立候補システムについては現在本部で検討中(詳細は7頁参照)。
4. 第28回日本産業衛生学会全国協議会の準備状況について、企画運営委員長の五十嵐千代理事より説明があった(詳細は4～5頁参照)。
5. 当日の第281回例会の内容について、岡本当番幹事より説明があった。
6. 第282回例会(一泊)および第62回見学会、第283回例会、第284回例会の進捗状況が報告された。
7. 各部会および衛生管理者の集う会、多職種連携の会の活動報告があった。
8. 平成30年度関東地方会役員、ニュース編集委員、が承認された。
9. 柳澤地方会長より理事会報告があった。理事、代議員の定年制(70歳)や、治療と就労の両立支援に関する診療報酬、第13次労働災害防止計画等について説明があった。また本部から関東地方会への交付金が減額される可能性についても触れられた。
10. 川上憲人理事長より学会の動向について説明があった。

平成30年度 第2回（2018年7月7日開催）

1. 諏訪園 靖企画運営委員長、能川和浩当番幹事より挨拶があり、第282回例会/第62回見学会の内容について説明があった。
2. 第28回日本産業衛生学会全国協議会(詳細は4～5頁参照)の準備状況について、実行委員長の中野愛子幹事より、現時点で373名の事前参加登録数、83件の一般演題登録数があるなど、進捗状況の報告があった。
3. 加藤憲忠選挙管理委員長より、本年度関東地方会選挙管理員会メンバー、地方会長・代議員選挙の方法、日程等について説明があった（詳細は7頁参照)。
4. 第281回例会について、岡本博照当番幹事欠席のため事務局より総括があり、185名の参加者があったこと等が報告された。
5. 第283回例会について、福田吉治当番幹事の代理として津田洋子氏より説明があり、11月17日（土)、帝京平成大学池袋キャンパスにて開催され、職場におけるがん検診と産業保健における多職種連携について、2つのシンポジウムを企画しているとの報告があった。
6. 第284回について、品田佳世子当番幹事より説明があり、2019年2月9日(土)、東医歯大にて開催され、特定健診、特定保健指導についてのテーマを企画中であるとの報告があった。
7. 各部会および衛生管理者の集う会、多職種連携の会の活動報告があった。

地方会総会報告より

与五沢真吾（慈恵医大)

2018年4月21日開催

1. 照屋浩司理事が議長に選出された。
2. 平成29年度事業報告が事務局より報告され、承認された。
3. 平成29年度決算報告が柳澤裕之地方会長より報告され、監査結果とあわせて承認された。
4. 平成30年度事業計画案、および予算案について、事務局より報告され、承認された。事業報告および事業計画は関東地方会ホームページに掲載。
http://jsohkant.umin.jp/report.html
5. 平成30年度関東地方会における地方会選出理事、幹事、監事、ニュース編集委員について事務局より報告され、承認された。

学 会 等 開 催 予 定

第283回関東地方会例会
日時:2018年11月17日(土)
会場:帝京平成大学池袋キャンパス(豊島区)
当番幹事:福田吉治(帝京大院)

第284回関東地方会例会
日時:2019年2月9日(土)
会場:東京医科歯科大学(文京区)
当番幹事:品田佳世子（東医歯大院)

第28回日本産業衛生学会全国協議会
日時:2018年9月14日(金)～16日(日)
会場:東京工科大学蒲田キャンパス（大田区)
企画運営委員長:五十嵐千代（東京工科大)
実行委員長:中野愛子(日立製作所)
http://www.sanei2018.jp

第92回日本産業衛生学会
日時:2019年5月22日(水)～25日(土)
会場:名古屋国際会議場（名古屋市）
企画運営委員長:斉藤政彦（大同特殊鋼株式会社 統括産業医）
https://www.congre.co.jp/sanei92/

第21回就労女性健康研究会
日時:2018年10月20日(土)
会場:専売ビル(港区)
代表世話人:野原理子(東京家政大学家政学部 栄養学科公衆衛生学研究室 教授)
http://wwh1999.com/

第7回日本産業看護学会学術集会
日時:2018年11月3日(土)・4日(日)
会場:ウインクあいち（名古屋市）
学術集会長:西谷直子(名古屋大学大学院医学系研究科 看護学専攻 教授)
http://www.jaohn.com/meeting/2018/

第26回日本産業ストレス学会
日時:2018年11月30日(金)～12月1日(土)
会場:一橋大学一橋講堂（千代田区）
大会長:種市康太郎（桜美林大学 心理・教育学系教授)、吉内一浩（東京大学大学院医学系研究科 ストレス防御・心身医学 准教授)
http://www.procomu.jp/jajsr2018/

第66回日本職業・災害医学会学術大会
日時:2018年10月20日(土)・21日(日)
会場:ホテルグランヴィア和歌山（和歌山市）
会長:南條輝志男(独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山ろうさい病院 病院長)
http://www2.convention.co.jp/jsomt66/

第77回日本公衆衛生学会総会
日時:2018年10月24日(水)～26日(金)
会場:ビッグパレットふくしま（郡山市）
学会長:安村誠司(福島県立医科大学医学部 公衆衛生学講座 教授)
http://www.c-linkage.co.jp/jsph77/index.html

第89回日本衛生学会学術総会
日時:2019年2月1日(金)～3日(日)
会場:名古屋大学 東山キャンパス（名古屋市）
会長:加藤昌志（名古屋大学大学院医学系研究科 環境労働衛生学 教授）
http://www.jsh89.umin.ne.jp/

第33回ICOH
日時:2021年3月21日(日)～26日(金)
会場:Melbourne Convention and Exhibition Centre (Melbourne, Australia)
組織委員会委員長: Malcolm Sim (Monash Centre for Occupational and Environmental Health, Monash University, Australia)
https://www.icoh2021.org/hosts/hosts/

編集後記

近年、毎年のように自然災害が襲ってくるように思う。地球の温暖化による気候変動の影響かもしれないし、そうでないかもしれない。亡くなられた方々を悼み、被害に遭われた方たちの一刻も早い生活再建を祈る次第である。さて、地方会ニュースも38号になった。酷暑の中、編集委員はたくさんの汗をかきながら会議の場（今回は慈恵医大）へやってくる。編集委員会では、正確で役に立つ記事、読みやすい紙面の制作に汗を流している。（前者はphysicalな汗、後者はmentalな汗）。ともあれ、限られた数の編集委員では、発想にも自ずと限りがあるだろう。会員の先生方のご意見やご要望、そして持ち込み企画など、大歓迎である。ぜひお寄せいただきたい。(稲垣)

本号が発刊される頃には少し落ち着いていることを願いたいが、連日猛烈な暑さが続いている。日本だけでなく、中国、韓国、ベトナムなどアジアの国々も異常気象であるらしく、また、北欧諸国、米国などでは猛暑と乾燥による山火事が大きな問題となっている。

エルニーニョ、ラニーニャ、ダイポールモード、ヒートアイランド、フェーンなどと名付けられた様々な現象が直接、間接に猛暑と関連するようであるが、「温室効果ガス増加による地球の温暖化」の関与も言われている。

前々号から本誌が電子化された。情報の検索が容易となり、発送コストの削減も実現できているが、ペーパーレス化も森林伐採を減らすことで二酸化炭素吸収量の減少を緩和して、温室効果ガスの削減に寄与していることを願いたい。（照屋）

編集委員名簿

浅沼雄二、稲垣弘文、◎大久保靖司、久保恵子、
澁谷智明、谷山佳津子、照屋浩司、中谷 敦、
原 美佳子、林 知子、廣田幸子、三浦善憲、
宮本俊明、山瀧 一、山野優子、山本健也、
○吉岡 亘、○高木美保、○与五沢真吾
◎編集委員長 ○事務局（50 音順）